



第 84 号

おもな記事

- ◆令和6年度全国学力・学習状況調査 1・2面
- ◆小・中学生人権啓発ポスターコンクール 2・3面
- ◆教育施設改修工事の状況 3面
- ◆本のたのしさ はっけん! 4面
- ◆教育に関する相談及び不登校に係る支援 4面
- ◆各こども園・保育園の取組 5・6面

発行：八幡市教育委員会 令和7年(2025年)3月10日
URL <https://www.city.yawata.kyoto.jp/>

「自分には良いところがある」に肯定的な回答をした児童生徒の割合については、中学校で大きく

肯定的な回答をした割合 (%)	小学校		中学校	
	R5	R6	R5	R6
自分には良いところがあると思うか	83.4	80.5	75.2	83.1
人の役に立つ人間になりたいと思うか	95.6	96.0	93.2	93.7
学校に行くのは楽しいと思うか	80.3	76.5	78.1	80.7
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはあるか	91.1	89.9	84.3	89.1

質問紙調査の結果を昨年度と比較したところ、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、左の表のよ

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果

文部科学省による全国学力・学習状況調査が、小学校6年生、中学校3年生を対象に実施されました。教科に関する調査（国語、算数・数学）は、原則として前学年までに含まれる指導事項が出題範囲となっています。例年同様、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（一人一台端末を使用してオンラインで回答）も行われました。

増加し、小学校でも高い水準で推移しています。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」についても、小・中学校ともに増加しており、学習を下支えする児童生徒の意識面での基盤が定着していることが分かります。

一方、市全体としての正答率向上には、まだまだ課題が見られるため、一人一台端末の効果的な活用や、個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びに繋がる授業の研究をさらに進めていく必要があると考えます。

安心できる環境と学力

質問紙調査を詳しく見てみると、心理的安全性やウェルビーイングに関わる「大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはあるか」とが分かります。

児童生徒の学び方と平均正答率の相関を見ますと、「自分で学び方を考え工夫することはできていますか」の質問で肯定的に回答している児童生徒の正答率が高いことが分かります。

「学び方」を身に付ける

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

平均得点率 (%)	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
できている	68.3	66.6	57.5	53.5
どちらかといえば、できている	61.9	59.3	52.2	46.3
どちらかといえば、できていない	55.0	49.1	45.3	33.2
できていない	53.6	41.5	33.3	15.8

文部科学省の分析においても、「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、自分で学び方を考え工夫しているほどICT活用率が高く、課題解決に取り組む学習活動を行い、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用しているほど正答率が高いことが述べられています。変化の激しいこれからの社会で生きる力を育むためにも学び方を身に付けることを大切にしたいと考えています。

令和6年度全国学力・学習状況調査の問題、正答例は「国立教育政策研究所」のホームページで公開されています。

(学校教育課)

第28回八幡市小・中学生 人権啓発ポスターコンクール表彰式

12月7日(土)、八幡人権・交流センターにおいて「第28回八幡市小・中学生人権啓発ポスターコンクール表彰式」を行いました。

※人権フェスタの第2部として開催しました。

「人権」(人に対する思いやり、やさしさ、友人関係、いじめなど)について日頃感じていること、願っていることを絵画と言葉で表現する本コンクールには、市内の小・中学生から総数949点の応募があり、市長賞に手嶋 あん(テシマ アン)さん(さくら小学校6年)の作品「世界のパズルあなたが居ないと完成しない」が選ばれました。

表彰されました受賞者15名は、次のとおりです。

(こども未来課)

受賞作品



市長賞

さくら小学校6年
手嶋 あんさん



教育長賞

男山中学校3年
端本 樹さん



会長賞

男山東中学校 3年
山下 陽詩さん



教育長特別賞

男山東中学校 3年
日野 志萌さん



会長特別賞

美濃山小学校 6年
加藤 聖菜さん

優秀賞

八幡小学校 6年
村下 愛結さん

くすのき小学校 6年
畑山 瑞季さん

橋本小学校 6年
雑賀 柚穂さん

有都小学校 5年
長村 善晴さん

中央小学校 6年
橋本 栞さん

南山小学校 5年
的場 寿乃さん

美濃山小学校 6年
堀井 桃杏さん

男山第二中学校 1年
面田 実生さん

男山第二中学校 1年
石田 菜都さん

男山第三中学校 1年
長谷川 美月さん

称略・順不同

教育施設改修工事の状況

令和元年度より整備してきた小中学校体育館空調は、令和6年度に八幡小学校と有都小学校が完成し、京都府下でいち早く全校完了しました。また、昨年度に続き、輻射式パネル併用型の冷暖房システムを採用し、日常利用だけでなく避難所利用においても、環境改善と省エネルギーに配慮しました。同時に照明のLED化とトイレの洋式化、乾式化、多目的トイレの整備も行いました。

(こども未来課)



有都小学校



有都小学校



八幡小学校

本のたのしさ はっけん！

市民図書館では、小学3年生の校外学習に図書館見学を推奨しています。

しかしながら、諸事情により来館することが困難な小学校からの要請があり、今年度、南山小学校と橋本小学校へ自動車文庫の運行を実施しました。

まず、貸し出しの前に図書館の利用方法、市民の本の取り扱いを説明した後、自動車文庫で実際に本を選ぶ楽しさを体験してもらいました。南山小学校では1クラスだったので、3時間目に説明、4時間目に本選びと、子どもたちはじっくりと自動車文庫を堪能してくれたと思います。橋本小学校は児童数も多く、3クラスあるので、1時間目から午前中いっぱい自動車文庫が賑わっていました。なにより書架から本を選ぶ子どもたちの様子は、本当に目をキラキラと輝かせ、楽しそうで、私たち司書の励みにもなりました。

橋本小学校においては、これまで図書館が市内高校、中学校と共同でしてきたPOPフェス（本の紹介のPOPの作成、展示）を小学校でもと校長先生からのお声かけにより、全校の取り組みとして『橋本小学校から おすすめの本 大好きな本 面白かった本を 紹介します』と題したPOPの展示を八幡市民図書館、男山市民図書館で行いました。

期間は12月中旬から1月いっぱい、12月中は八幡市民図書館で、たけのこ・1年生・3年生・5年生を男山市民図書館で、2年生・4年生・6年生を展示し、1月に入れ替えて展示しました。どのPOPもみんな力作揃いでフロアが一気に賑やかになり、子どもたちが書いたイラストや紹介文もとても楽しく、図書館に来館した子どもたちも興味を持ってPOPをみて、本を借りて行く姿がみられました。

今後も、図書館は子どもたちが本と出会うことの楽しさや面白さを感じ、生きる力を育てる場となるよう活動していきたいと思っております。

(市民図書館)



教育に関する相談及び
不登校に係る支援

教育に関する相談

市内在住の幼児・小・中学生とその保護者の相談に、教育相談担当指導主事及びカウンセラーが応じます。

不登校支援

教育支援教室「やつぎ」

個の興味・関心に応じた活動や個の状況に応じた学習を通して、社会性を培うとともに、自立を促し、学校生活への適応や社会的自立を図ります。

市内在住で不登校の小・中学生が対象です。

【問い合わせ】

八幡市教育支援センター

所在地：八幡市男山笹谷2

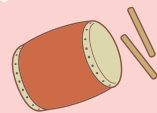
電話：075-982-3001

時間：平日 9時～17時

※学校または教育支援センターに電話でお申し込みください。
※学校連絡アプリにて配信いたしました。パンフレットもご参照ください。



令和6年度



こども園・保育園の取組



(子育て支援課)

「きーめった! ~砂場の山からジャンプ~」 有都こども園

有都こども園では、子どもたちが自分で自分のことを決めて、遊びや生活を進めようとする姿を大切にしています。6月の泥んこ遊びでは「私はここからジャンプする!」「こんなポーズしたい!」と一人一人が自分で高さや跳び方を決め、次々と砂場の山から水たまりへ飛び込む5歳児の姿がありました。

友達が跳び込むと「〇〇ちゃんすごい!」と周りの子どもたちも拍手で認め合い、飛び込んだ子どもも眩しい笑顔を見せてくれました。子どもたちに豊かな心が育っていることを実感した嬉しいひと時です。自分で決めたことだからこそ、「楽しかった」「認めてもらえた」とより満足感や達成感を感じ、次への意欲へとつながると考えています。今後も小さなことでも自分で決める姿を大切にしていきたいと思います。



「ハロウィンパーティー」 やわたこども園

「ハッピーハロウィン!」と楽し気な声があちこちから聞こえてきます。年長児がカラーポリ袋や色画用紙等で思い思いに衣装を作り、仮装をして園内を練り歩きました。パーティーの招待状を届けながらみんなにアピールタイム。その後ホールに会場を移し、友達と相談・協力しながらコツコツと準備したお化け屋敷やキャンディ作り、わなげや折り紙、クレーンゲームと様々なコーナーが出来上がりました。パーティー当日は子どもたちで役割分担しながら異年齢児を楽しませてくれました。年少児とは、一人一人一緒にコーナーを回ったり、お化け屋敷では「怖くないよ」と手をつないでゆっくりと進んだり、折り紙コーナーでは教えてあげる姿がありました。嬉しそうに側で待つ異年齢児の様子も見られ微笑ましいひと時でした。



「保育参観」 南ヶ丘保育園

子どもたちの日々の学びと成長を保護者の皆さんと共に確認し、喜ぶ機会として行っていた「生活発表会」をコロナ禍を機に「保育参観」と名前を変えて行っています。その中で5歳児は保育園生活の締めくくりにふさわしい勇壮で華やかな和太鼓に取り組んでいます。夏のたいて祭りとはまた違って、一人一人が完璧にリズムを覚えること、そしてみんなでリズムを合わせることの難しさや音の強弱も学びました。本番では担任の締め太鼓の音でリズムをとり、お友だちと息を合わせ、最後に「ヤー！」の掛け声と決めポーズで保護者の皆さんから大きな拍手をいただきました。

誇らしげな子どもたちの顔がとても印象的でした。この自信を胸にそれぞれの次のステップへすすんでくれることを期待しています。



「み～んなで餅つき！」 南ヶ丘第二保育園

12月12日、毎年恒例のおもちつきをしました。当日は日頃より保育園の行事に足を運び、子どもたちの成長を見守って下さっている地域支援相談員さんと諸機関、小学校の先生にも来ていただきました。蒸しあがったもち米をほんの少しずつ食べた子どもたちは「あまい」「おいしい」とびっくり！そして「このもち米を今からみんなで力を合わせておもちにするよ」と保育士が言うと歓声が沸きました。大人が杵を振り上げ、子どもの「よいしょ！」と元気な掛け声と共に次々におもちがつきあがります。小さくちぎりきな粉をまぶしたおもちを口にした幼児は「おもちがのびるー」と笑顔で食べていました。家庭での経験が難しくなっている伝統行事をこれからも大切に、子どもたちの感性を育てていきたいと思えます。



「わかたけまつり」 わかたけ保育園

3・4・5歳児の縦割り活動で「わかたけまつり」をしました。たくさんのコーナーがあり、行きたいところを自分で選んで遊びます。いろいろなコーナーを回って遊ぶ子、一つの遊びをじっくり楽しむ子、子どもによって楽しみ方は様々です。カラオケコーナーでは、はじめは恥ずかしいと言っていた子も友達が歌っている姿を見てやってみようとして挑戦！みんなが観客席からマラカスやタンバリンで盛り上げてくれると、恥ずかしい気持ちもどこへやら。いつの間にか歌いたい子がいっぱいになり大盛況でした。ゲームコーナーでは、5歳児が小さい子たちにマンカラやトランプのルールを優しく教えながら遊ぶ姿があり、異年齢の交流もしながら、それぞれ自分の好きな遊びを存分に楽しんだ一日でした。

